

会員の活動報告

(2013年11月～2014年10月)

渋谷直樹

- ・ヴォルテール悲劇における「悔悟の念」の役割（口頭発表、日本フランス語フランス文学会2014年度春季大会、お茶の水女子大学、2014年5月）

田島義士

- ・ランボオの詩における色彩表現（口頭発表、第32回ボードレール研究会、神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ、2013年12月）
- ・アントワヌ・ダガタ、『抗体』（翻訳、共訳、赤々舎、2014年4月）
- ・ランボオの「オフェリア」と「記憶」における光と水の効果 — 現実と虚構の境界（口頭発表、日本フランス語フランス文学会、広島大学、2014年10月）

田中 良

- ・辻邦夫のパリ滞在とプルースト（口頭発表、関西大学フランス語フランス文学会、2013年12月）
- ・辻邦夫のパリ滞在とプルースト（『奈良大学紀要』第42号、2014年3月）

津川廣行

- ・『贗金つかい』にみる複雑系的世界 — 境界線事例と初期値鋭敏依存性 —（口頭発表、関西大学フランス語フランス文学会、2013年12月）
- ・『一粒の麦もし死なずば』にみる「化学ハーモニカ」の実験（『仏語仏文学』第40号、2014年3月）
- ・『法王庁の抜け穴』の隠された「起源」 — 複雑系の観点から —（口頭発表、大阪市立大学文学会、2014年3月）
- ・『新しき糧』にみる「進化」の問題 — 《来るべき神》の思想を中心に —（口頭発表、大阪市立大学文学会、2014年9月）

友谷知己

- ・アルディ『血の力』に於ける脚色の様態（『仏語仏文学』第40号、2014年3月）

内藤義博

- 台本作家ヴォルテール（口頭発表、関西大学フランス語フランス文学会、2013年12月）
- *Le Pygmalion de Rousseau et son esthétique de l'opéra*（『立命館言語文化研究』第25巻2号、立命館大学国際言語文化研究所、2014年1月）
- *Rameau et Rousseau –universalisme et relativisme–*（『仏語仏文学』第40号、2014年3月）
- *Rousseau et Gluck : poésie et musique dans Iphigénie en Aulide, Annales de la société Jean-Jacques Rousseau*, 51, Droz, 2014年4月

山川清太郎

- シンポジウム：デジタルコンテンツと外国語教育（小松祐子、山田仁両氏との共同発表、第28回関西フランス語教育研究会、2014年3月）
- デジタルコンテンツと外国語教育（小松祐子、山田仁両氏との共著、RENCONTRES 28、関西フランス語教育研究会、2014年7月）
- 書評 『ICTで実現する大学教育改革-フランス・カナダ・日本の事例から-』岩手大学大学教育総合センター編、東北大学出版会、2013、247p.（*Revue japonaise de didactique du français*, vol.9 no 1 et 2, 日本フランス語教育学会、2014年9月）
- 教科書：ヌーヴォー！ — フランス語で伝えてみよう —（小倉博史氏との共編、朝日出版社、2015年1月）

和田ゆりえ

- G. ディディ = ユベルマン 『ヒステリーの発明』（上・下 共訳 みすず書房、2014年1月）

リコ-ヨコヤマ・アドリアナ

- Internet : « Une passerelle interculturelle »（口頭発表、獨協大学天野貞祐記念館、2013年12月）
- Internet : « Une passerelle interculturelle »（第27回獨協大学フランス語教授法研究会報告、2013年12月）
- *De la dédiabolisation du monstre à l'identification au bourreau*（『仏語仏文学』第40号、2014年3月）

修士論文題目

2013年3月

橋野勇一

フランス語前置詞 *dans* の意味分析と辞書記述
— 学習者の効果的な習得のための提案 —

森田梨花

『ペロー童話集』における道徳性の活用
— 近代派シャルル・ペローの文学的嗜好 —

2014年3月

長谷川真央

サン＝テグジュペリにおける絆

2014年9月

藤岡亜美

ラ・フォンテーヌにおける女性の欠点について
— 『プシシェとキューピドンの恋』を中心に —

博士論文題目

2013年3月

高岸敦夫

カンニバルとは何か
— モンテーニュの食人言説を中心として — (関西大学)

出口由美

フランスのマスメディアにおける科学ディスコースの分析
— 数値表現の認知メカニズムに着目して — (関西大学)

2014年1月

渋谷直樹

Tradition et modernité. Étude des tragédies de Voltaire (パリ第3大学)

2014年9月

田島義士

Les Couleurs dans la poésie de Rimbaud (パリ第4大学)

後 記

このたび永年にわたり本学会に貢献してこられました川神傳弘教授が、2015年3月末をもって退職されることになりました。この『仏語仏文学第41号』をご退職の記念とさせていただきますが、多数の原稿をおよせいただきました会員の皆様および本号の刊行にご協力をいただきました皆様には厚く御礼を申し上げます。

本学会2014年度研究発表会・総会が2014年12月20日(土)午後1時から、関西大学千里山キャンパス第1学舎AV-B教室において開催されました。3名の会員諸氏による研究発表会は和やかな中にも活発な質疑応答で盛り上がり、充実した研究発表会となりました。当日の発表者と発表題目を以下に紹介しておきます。

1. 『新しき糧』の「不統一」が意味するもの
—地質学的時間と人間の時間—
大阪市立大学教授 津川 廣行 氏
2. フランス・オペラの現代上演における問題—驚異の再現は可能か—
本学非常勤講師 内藤 義博 氏
3. 『ジン』の語りの構成について(2)—多元焦点化の物語を巡って—
本学教授 奥 純 氏

また、最近の何号かで会員の学位取得の報告が抜けておりましたので、本号にまとめて記載しました。もし他に記載漏れがありましたら、次号に掲載いたしますので、ご連絡いただきたくお願い申し上げます。

以上、末尾ながら会員各位のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(編集委員会)

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
 2. 研究会・講演会の開催。
 3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修専任教員。
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
 3. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2007年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第41号

2015年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
フランス学研究室
印刷所 株式会社 遊文舎
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号
電話 (06) 6304-9325(代)

(非売品)